

江湖諸彦又以倦土重來の彼れが意氣を愛撫され最大の御聲援あらん事を希上候

辰野木商報

毎月三回七ノ日發行
定價壹枚貳錢郵稅壹錢
廣告料壹行壹圓貳拾錢
發行兼 濱田正夫
編輯印刷人 濱田正夫
大阪市南區安堂寺橋通二丁目一番地
發行所 濱田日報社

申上候

◎雲低く垂れ鬱陶しき梅雨に入りては相場も鬱々時に晴れては高値となり又降りては下押しとなる精糖は七八月廿三圓八十五錢より九十錢は伸力鈍く分蜜七八九月十八圓七十錢より七十五錢は活氣に乏し時は梅雨期である偶々海外高による相場も兎もすれば軟弱に傾かんとする故無きにあらず。
されど樂觀者は世界的に糖界の前途を強氣し確固たる信念のもとに腰を据へて思慮して居る様に見ゆる。
◎想ふに内地糖界の趨勢は此後少くもこれを二分して考へられないでもない即七八月迄を一期とし九月より十二月を二期としてである。
◎七八月と云ふ月は大需要期であるが故に一般に注目され豫期されたる糖界

の股脹期であらねばならぬ現今地方と言はず總て砂糖の手當ては薄弱である此月に入り需要喚起と共に勢い中央市場の活躍すべきを思ふ至當なる見解ではあるまいか。
且海外は此頃に至り内地糖界を賑はすべき材料を齎す順序である。
加ふるに内地需給に於ける供給不足の一部の主唱するに於て益場面の活氣を増す道理である。
此外に閉却すべからざるは臺灣に於ける風水害である此天候問題は最も重大視される時期である。
◎されど需要一過後の九月以後に於て市場の活氣は勢い殺がれると見ねばなるまい即大風一過後の寂寥を思はざるを得ない、たとへ海外高と雖單に市場の思慮に止まり需要の伴はざるの嫌いがある人爲的に相場の維持向上を策するとも砂上の樓閣ではあるまいか人

の伴はざる相場は必ず其進路を阻がれる。
曩きに消費より振替へられたる原糖あれど又一方より消費に振換へられたるものあらざるかを思はしめるでは無いか需給均衡を失し供給不足を説くものありと雖も暗中摸索であるとしたら信を置けない事になる。
且此期にありては粗糖會社の新糖に對する方針も立てられなければならぬと同時に糖商は粗糖會社に乗せられざるの準備が必要である此準備策戰時期に従らに市場も煽り相場を高める策の得たるものではあるまい。
總じて九月以後の糖界は注目すべき警戒すべきものではなからうかと言はれない事でもあるまい。
◎要するに最後の勝利者は總てを通じての強氣者にして前途の樂觀者なるか

又は氣迷の裡にありて今日主義を守り前途を悲觀する人なるかは後日にまたなければならぬ實に興味津々として盡きない宿題である。
◎精糖は新高製糖の愈製造を開始せりあり帝國又同じと聞いて居る臺灣製糖明治製糖の増設製品近きにあるべしと傳へられるの時大日本超然として控ゆ敵に對するの増設準備怠り無く更に増資を傳へられた總て吾れの敵にあらずと嘯く精製糖業の覇者は愈油斷すべからざるの時期に入った其精糖戰を見る來年以後であらうか更に内地精糖に對する敵は耕地白糖である鹽水港は益努力其製品は海外に噴々たり益其販路を擴張して居る昨今新紙は新たに東洋製糖の耕地白糖製造に着手すべきを傳へて居るこれ事實とせば輸出は標榜して立つたる内地精糖に對しては更に大なる打撃と言はねばならぬ。
◎黒糖の東京名古屋大阪下關に於ける出捌けを見るに六月十五日迄平均一ヶ月出庫大略左の如し

東京 一七、九一七擔
名古屋 六、一一〇擔
大阪 二一、七五五擔
下關(六月上半期) 二六五擔
合計 四六、〇五七擔

此後の出庫七ヶ月間從來の二割増とすれば約三十八萬七千擔六月十五日右四
大市場在荷計三十七萬七千五百擔此後
二萬擔入津を見るとき其需給の均衡
窺ひ知らる黒糖の思惑者安心して可なり
需要者は安値として他糖に比し割安
なるの故を以て一層消費すべきなり。

◎沖繩出張所の報する處によれば六月十五日迄

産地出廻高 五一九、七五三担
田舎在荷 二〇、〇〇〇担
六月十五日迄積出高

鹿兒島 一三五、〇七二担
大阪 一五一、〇九三担
名古屋 三六、四四九担
東京 一八三、六七九担
合計 五〇六、二九三担

◎沖繩産糖積付別表 單位挺(除白下)

大正元年 大正二年
鹿兒島 一六三、五二八 一三六、五三八
大阪 一八四、二六七 一九四、七八七
名古屋 七六、七四九 九八、四八一
東京 七六、七四九 九八、四八一
大正三年 大正四年

鹿兒島 一二八、二四三 一四〇、三三三
大阪 二九八、九四九 一一五、六四七
名古屋 二五、一八八
東京 一三五、六六四 一四三、八五六
◎東京へ積出の激増を見る數次述べし
處大阪の黒糖商覺醒し能はざるかその
罪を地勢に歸せんとするか。

◎ニューヨク電は最近五弗二十五仙を
報じて居る一時より二十五仙安なり大
市場に於ける變動は激烈である多少の
高下により神經を惱ますにも及ぶまい
五月十一日附ニューヨク通信は同日迄
に精糖輸出二五三、七七八噸とある昨
年の四三、四四五噸に比し二一〇、三三
三噸の増加であるニューヨクに於ける
信すべき需給の統計を左に示す

收 穫 (單位噸)

ルイジアナ(一九五—一六産額) 二五、〇〇〇
ポートルコ 内地消費 二〇、〇〇〇
ハワキ 消費 二〇、〇〇〇
玖 瑪 内地消費 二〇、〇〇〇
亞米利加ビート 消費 二〇、〇〇〇
其 他 消費 二〇、〇〇〇
フキリツピン 消費 二〇、〇〇〇
合計 四、九六、〇〇〇

亞米利加消費 三、八〇、〇〇〇
差 引 一、二五、〇〇〇
右の内既輸出 二五、七六
玖瑪糖本日迄歐洲向輸出 三三、七〇
計 六〇、七四九
今後輸出さるべき數 五〇、五二
内二〇、〇〇〇噸は賣約済にし
て船積を待たれつゝあり
依てあと賣らるべき數は三十五萬噸位
のものであるニューヨク相場の五弗以
上を持続して居る不思議は無い
右の表による

玖瑪はグーアの豫想で、亞米利加産糖
は一九一五年と全様と見てある、其他
國のは一九一五年輸入數を基礎として
あるフキリツピン糖は既着數に對し猶
四萬二千噸を加へたるものである然し
運賃は一封度約三仙の高率であるから
果して此砂糖が全部輸入さるゝかは少
々疑問である、亞米利加消費は年々平
均三三四パーセントの増加を示して
居るけれども一九一五年同様と見る。

目下玖瑪とニューヨク間の運賃は百
封度六十仙—六十五仙である。
最近瓜哇に於て丁抹は七月積白双十四
ギルダーにて約一萬噸買付けせりと傳
へらるこれ競争による新らしき現像で

ある。
右丁抹に於ける最近の糖業を見るに全
國砂糖消費量は
昨 年 一三六、〇〇〇噸
平素に於て 二四、〇〇〇噸
の輸入を見るのであるが昨年には於ては
何等の輸入を見なかつた。
同國甜菜産糖昨 年 一二五、〇〇〇噸
一昨年 一五三、〇〇〇噸
昨年は一昨年より二萬八千噸減産であ
る。

昨年の消費と生産を見るに差引一、
〇〇〇噸の供給不足となる勘定である
◎これ等意外の買付けは内地糖界に意
外の響きを與へる繰り返す内地の糖界
は世界の糖界であると糖價は遠くロン
ドンニューヨクの取引相場によつて
進退し伸縮するものなりと言ふ事を一
般消費者と共に所謂國民的の自覺とな
つたなら一層糖界の鞏固を増す所以で
あらうが現今糖價の高きは粗糖會社に
對する保護の厚きに乗じ會社の暴利を
擡にし且糖商の暴利を貪るものにして
外糖の高きは偶々これ等を助長せしむ
るものであると一部の誤りたる解釋
の聲であるこれ等の人々は世界的に我
糖界を大に研究せねばならない。

●大日本製糖會社製品

大阪倉渡シ〔壹俵百斤入 轉ガンシ値段〕

SA	五温	廿五圓五拾錢
SK	五温	廿四圓五拾錢
SL	五温	廿參圓七拾錢
SB	四温	廿四圓五拾錢
SR	四温	廿四圓
ST	三温	廿參圓五拾錢
SW	三温	廿拾參圓拾錢
SX	三温	廿拾貳圓七拾錢
SU	三温	貳拾貳圓四拾錢
SO	三温	廿貳圓參拾錢

御注文は成行にて御勉強致候

◇角砂糖廿五封度入
一封度ニ付 廿 參 錢

●臺灣製糖神戸製品

〔大阪又ハ神戸倉渡シ 壹俵百斤轉ガンシ〕

新NSA	新高製糖	拾八圓六拾錢
新TOB	東洋製糖	拾八圓七拾錢
新TBB	臺灣製糖三温	拾八圓參拾錢
新SAA	新興製糖	拾八圓六拾錢
新TAB	臺灣製糖	拾八圓七拾錢
新LSB	林本源製糖	拾八圓六拾錢
新TEA	帝國製糖	拾八圓六拾錢
新ESB	鹽水港製糖	拾八圓六拾錢

●臺灣分蜜糖 大阪倉渡シ 直 積

☆ 四温 貳拾參圓六拾錢

☆ 四温 貳拾四圓

新MS_B 治製糖 拾八圓拾錢

DN	二番糖	拾參圓七拾錢
TOM	二番糖	拾貳圓七拾錢
HT	二番糖	拾貳圓七拾錢
SB	二番糖	拾貳圓七拾錢
TEC	二番糖	拾貳圓八拾錢
EBB	二番糖	拾參圓八拾錢
TOM	特上	拾五圓
TEC	特上	拾五圓
TOC	臺灣赤糖	拾參圓貳拾錢
NE	同	拾參圓
マニラ糖	大阪倉渡シ	拾參圓
檜入	二枚壹俵三、四十斤入	拾參圓參拾錢
飛切	參號	拾貳圓四拾錢
上	參號	拾貳圓四拾錢
次	品	拾貳圓
アンペラ	百斤俵	拾五錢高

●瓜哇赤双白糖(袋入)

上	品	品
●臺灣白糖		
臺灣白双A印	廿參圓七拾五錢	
同白糖EK印	貳拾貳圓七拾錢	
●糖	蜜	
△糖	蜜	九圓五拾錢
日出全		九圓參拾錢
●北海道片栗粉		
一等粉		七圓四拾錢
●マカロニー		
六十ポント入一箱		拾參圓貳拾錢
●素		
赤友白髮		五圓
綠友白髮		四圓參拾錢

二十七圓五十錢

長四二二番特長四六九五番

